

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0470300260		
法人名	有限会社ライフサポート		
事業所名	グループホームオリーブ		
所在地 (電話番号)	塩竈市松陽台3丁目25-20		(電話)022-365-5281
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 19 年 9 月 14 日		

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 26 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤 4 人, 兼務 1 人, 常勤換算 6.8 人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000又は26,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000		円

### (4) 利用者の概要( 8月1日 現在)

利用者人数	7 名	男性 3 名	女性 4 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.4 歳	最低 79 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ももせクリニック
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者は職員やホームの友達と散歩や会話をを楽しむ雰囲気があり、個々の職員には優しい対応が見受けられる。バス通りに面した便利な住宅街にあるが、看板が無く地域と交流を図りオープンなホームにする姿勢とは見えない。経営者もしくは運営責任者に地域密着型施設としての理解と意欲が感じられず、運営推進会議は未設置であり、地域・行政との積極的な協力姿勢に欠ける。介護計画作成に当たっては、介護支援専門員の責任で、入居者の日々の状況の変化を確認し、少なくとも3ヶ月ごとに評価し、計画の見直しをする必要がある。職員の善意に頼るのでなく、常に研修を図りながら職員の質の向上と、仕事への意欲の維持を図るようお願いしたい。近未来の地震発生も予測される中、災害対策も地域の理解や協力のもと、早急に進められる事を切望する。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>入居者の表情が明るく、前回にも増していきいきと活動的なのは評価される。前回指摘のあった安全管理のうち玄関前の段差についてはスロープが造られているが、隣の敷地との間に危険箇所の解消が図られていない。運営推進会議の設置、介護計画の作成・見直し、地域との連携など課題とされていたことについて十分な取り組みがされているとは言えない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>不十分である点を自覚し、改善しようとする意図は見られるが、開設後4年経過していることを考慮すると、困難な条件が多々あるとしても、改善への意欲と努力が充分に見られるとは言えない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議についての認識が不十分のため、積極的に取り組もうとする意欲につながっていない。運営推進会議を活用することで地域に認知され、地域の協力を得ながら同時に地域の社会資源であり介護保険施設としての役割を果たしていくようお願いしたい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>介護計画や日常生活についての家族への報告は行なわれているが、計画の見直しの前の意見聴取や、家族とのコミュニケーションが不十分のため、不安をあたえている様子が見受けられる。入居者のより豊かな暮らしを家族共々に築いていく協働を目指すことが望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との連携や協力を望んでいるが、働きかけが充分とは言えない。オープンな施設にし、地域やボランティアの力を借りながら入居者の活動をひろげることが望ましい。全体に研修する姿勢が充分ではなく、同業者との交流や連携から吸収し、自分たちの力にしていく工夫も求められる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型施設としての認識の共有が充分とは言えない。入居者一人一人の尊厳を大切にしている姿勢はあるが、地域住民としての入居者の暮らしをつくり、同時に地域の福祉資源としての施設のあり方も考慮されたい。	○	認知症になっても普通の人として地域で普通の暮らしが出来るよう、家族や地域の人々とともに支えあっていくことが地域密着型施設の目標とするところであり、それを踏まえた理念を明示することが求められる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が理念を共有するために管理者の働きかけはあるが、そのための話し合いが充分であるとは言えない。	○	研修の重要性を認識し、貴重な時間の活用を工夫しながら、理念の共有が介護の基本であることを意識して取り組むことをお願いしたい。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩などを通じて顔なじみになることも大切であり、その努力は評価できる。開かれた施設と認知されるための町内会など地域の組織への働きかけが不十分である。	○	家族をはじめ、入居者の友人、顔なじみとの付き合いや、幼稚園から老人会まで地域の諸組織との交流などを深め、入居者の生活の広がりや地域との協力関係を築くことが求められる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について全員で話し合っていないが、中心となる職員3名で改善すべき点の検討を行い、反省もし取り組もうとする姿勢が認められる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	諸事情があるにしても、前年の評価時に強く求めた運営推進会議設立がまだスタートしていないことは重大な問題である。地域密着型サービスにおけるこの会議の意義の重さを認識し、早急に設置、活用されたい。	○	職員間で運営推進会議の意義と運営について早急に話し合い、積極的に活用する体制をつくるよう、緊急案件としてお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型施設として行政との関係が深まったこともあり、制度の動きに応じて施設運営に支障をきたす事が無い様、常に市町村担当者との連絡を密にし、正常な運営を行なうことが望まれる。	○	施設運営に関わる者は法制度の改正に注意を払う事とともに、地域でのサービスのあり方について市当局と協力関係を築くことが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居者の生活状況、金銭出納状況等の報告を書面で行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設運営に関して家族が意見を出しやすい場面の設定や方法について対応が充分とは言えない。家族の不満や苦情を聞きだす工夫や体制も充分とは言えない。	○	家族とのコミュニケーションをよくするための機会づくり(家族会、家族との協働行事)を図ったり、苦情解決の第三者委員会を設置・明示して意見苦情を言い出しやすい状況作りをお願いしたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動にはそれなりの対応をしているが、採用された職員の引継ぎや研修に不十分さが見え、入居者に不安を与えている様子が見られる。	○	職員の異動は入居者に大きな喪失感や不安に繋がりがやすいので、唐突にならないよう事前・事後の対応に配慮し、交代要員との引継ぎに心を砕くようお願いしたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への派遣、内部研修共々、研修の機会を積極的に生み出す工夫と努力が充分とは言えない。	○	新採用者の研修は言うまでも無く、現任者の研修は介護の質の向上に欠かせない。運営者は、管理者をはじめとして職員研修の機会を逃さず、職員の資質の向上を図るよう努められたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会にも未加入で、同法人の1施設以外殆ど他の同業者との組織的交流が行なわれていない。	○	運営の仕方から細かい介護の工夫まで、同業者に学ぶことは多い。また職員のストレス解消にも効果的で離職予防にも繋がると考えられる。同業者との交流を図るよう、運営者の理解を求めたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の調査などで家族や本人の理解を深める努力は行なっているが、入居に際して不安やダメージを少なくするための配慮が充分とは言えない。	○	入居以前に、通所や体験入所等を含むホームに馴染むための関係づくりを行い、ホームの雰囲気溶け込みやすいような配慮を望みたい。
<b>本人t</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事、買い物、散歩など職員とともに行なうよう努めており、入居者は職員に支えられて一緒に生活している事を実感している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自立している人が多く、外出を楽しみにしている意向を踏まえ、お花見、芋煮会などの行事のほか日常的に食材購入、ドライブ、外食などの機会を多く造る努力をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護についての課題を明確にし、本人、家族、職員の話し合いの下に介護計画を作成するという見地から見ると、充分とは言えない。	○	介護支援専門員の専門性を活かし、日常の観察、本人の意向、家族の希望などを踏まえ、職員間の話し合いのもとに介護計画が作成されるようお願いしたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは前回の計画について評価を行い、本人の意向や家族の希望を尊重しながら行なう点で不十分と思われる。	○	前回の計画について経過観察と評価を行い、少なくとも3ヶ月に1回の見直しを行なうようお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は原則として家族で行なうことになっているが、家族の事情で不可能なことが多く、急変時や連日の通院にも最大限対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携のほか、本人や家族の希望でかかりつけの医師への通院支援も行なっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する場合は早めに家族と相談のうえ病院での対応を予定し、現時点でのターミナルケアは不可能としている。	○	終末のケアをホームで行なうには多くの困難が予測されるが、医療・看護体制の充実を図り、出来るだけ長く本人の希望に応えられるような方向でお考え頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いには留意し、年長者に対する礼儀を重んじ、プライバシーを尊重する対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を第一に考え、各人のペースを大切にした介護を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員皆で1ヶ月の献立表をつくり、入居者の希望や季節感のある食材を取り入れる努力をしているが、さらに改善したいとしている。	○	食事は健康保持の源泉であると同時に、一番の楽しみでもある。行政の栄養士の助けを借りたり、食事を楽しめる様々な要因を出し合い、工夫したりして、少しでも豊かな内容にしていくようお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は事実上1日おきになっている。自己評価では夜間浴も検討中とあり、改善を期待したい。	○	入浴は清潔を保ち血行を良くするし、身体的な自立度が比較的高い人が多いという好条件もあるので、毎日入浴できる事が望ましい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴などの情報取得も充分でなく、本人の希望を引き出す働きかけも充分とは言えない。自己評価でも支援が不十分としている。	○	本人や家族と「距離を置く」という姿勢でなく、入居者に寄り添いその身になってどのような時に嬉しい表情になるか、いきいきするかを観察しそれに応える対応が望まれる。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	記録によっても散歩など頻繁に戸外に出掛ける支援を行なっている。訪問した日も「疲れた」と言いながら「お宮さんまで行ってきた」と達成感を語る生き生きした表情の人が多く見られた。暑い日で、帰ってすぐの水分補給も適切な処置と思われた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設は交通量の多い道路に面しており、玄関の外側にセンサーをつけることで危険回避を図り、昼間の施錠はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害など緊急対応のマニュアルに不備が見られ、避難訓練も行っていない。	○	職員は火急な場合の対応の仕方を熟知して、夜間一人の場合の緊急対応手順に慣れる必要がある。また入居者は避難訓練をしてなければ混乱して事故の危険が予測される。マニュアルのもとで避難訓練を定期的に行なうことが切望される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取の記録をし、摂取制限や減塩の必要な人の対応もできている。なお献立等について管理栄養士と相談するなど一層の改善を期待したい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設はシンプルな設計であるが、天窓にロールカーテンをつけて採光の調節をしたり、冬場の温度調節にも工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の使用を奨励しているが、手軽なものが多く使われている。季節による衣類の交換の必要が、ある意味では家族との接触を密にする結果にもなっている。表札は個別に特色あるものを工夫している。		